○鳥羽市生浦湾の牡蠣養殖筏

○鳥羽市四つ星ホテルにて

○日本のルーツは飛騨（天孫降臨の地）･･･岐阜県高山市から郡上市に向かう“せせらぎ街道”にて
稗田阿礼（古事記の語り部）生誕地（諸説有り）とのこと.

○奥飛騨地方の格調高い民家（高山市黒見町）

○寝覚ノ床（長野県上松町）･･･日本五大名峡

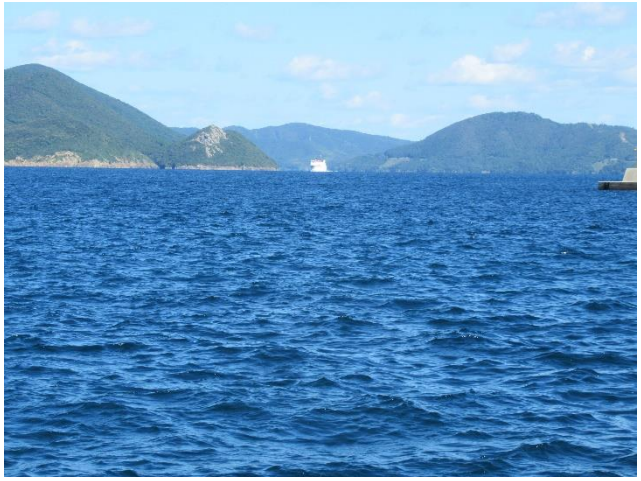
浦島太郎姿見の池
「浦島太郎が玉手箱を開け，
夢から目が覚めた場所」･･･

寝覚ノ床美術公園

○塩の道･･･全国に分布する生活路

○島根県隠岐郡知夫村（人口 600 人余り）

外洋に近い港のため高波の影響を受けやすい（欠航）が，隠岐島前内を運行する内航船で隣接港からアクセスすることができる．それにしても，お店がなかったような･･･



○島内は放牧が多く，観光道路は牧道を兼ねている．地雷？が多いことからも，赤壁（玄武岩類からなる断崖）視察を中途で断念.

役場前の入江

ハゲ山

○過疎地における白タク ･･･始めてその制度を知る

（ライドシェア）

- 専業事業として成り立つか？
- ”本業等の合間に･･･”といった姿勢では，”どちらも中途半端／ろくな仕事をしていない”と言った印象を抱く
- タクシーとの競合問題があり，結局はこれを利用／拡大したシステムに落ち着くのでは？

○今治城･･･1980 年以降再建

〇地獄温泉泉源（南阿蘇村）

阿蘇山南東斜面内のひっそりとした温泉であるが，近年の人気は県内 No.1 とのこと．泉源横の林道を上り詰めると阿蘇パノラマラインに合流．

〇奥飛騨･･･2 月

○鳥羽市安楽島町

鳥羽竜
鳥羽竜の発見
1996年7月14日、ここ安楽島町の海岸で全長16～18メートル、体重が31～32トンくらいと推定される大型草食恐竜の化石が、化石研究家4人によって発見されました。
三重県大型化石発掘調査団が組織され同年9月に発掘調査活動を行ったところ、中世代白亜紀前期（1億4500万年～9700万年前）の「松尾層群」と呼ばれる地層から、多数の化石が発掘されました。この化石は2001年3月、同調査団によって、ここにレプリカのある大たい骨や、上腕骨、尾つい骨など12か所の部分に特定され、その骨の特徴から恐竜の中で最も大型の竜脚類と呼ばれるグループに属する「テイタノサウルスのなかま」と推定されました。
日本では、恐竜化石が発見されると発見地にちなんだニックネームがつけられますが、この恐竜にも地元を中心として「鳥羽竜」という名前をつけて親しんでいます。
"トバリュウ"で確認あるいは推定された化石骨の部位（赤）をカマラサウルス（Camarasaurus）の骨格を用いて示す（富田他、2001：原図はWilson and Sereno,1998より）
（ ①右上腕骨；②右大たい骨；③尾つい骨A；④尾つい骨B ）
イグアノドン
恐竜の足跡化石の発見
1998年8月30日、恐竜足跡化石が化石研究家によって発見されました。「鳥羽竜」の骨発見場所から西へおよそ15メートルしか離れていないところから、地層に凸型の岩の盛り上がりが2個見つかりました。
足跡は、幅が44センチ、長さ50センチで、かかとの部分が大きいことや下に向って三本に分かれた指先が全体に丸くなっていることが、白亜紀前期に生息していた大型の鳥脚類「イグアノドン科」の特徴を示しています。
<原寸大>
50cm
44cm
首の骨、肩甲骨、脛骨発見場所
足跡化石の発見場所
現在地

○石風呂（萩）

国指定 史跡

野谷石風呂

昭和十年十二月二十四日 指定

この石風呂は、岩穴を利用した蒸し風呂です。石を焼いて水を注ぎ、その湯気に浴します。

これは、文治二年（一一八六）東大寺再建の任にあたり、徳地の地に来て大量の建築用材を奈良に送っていた俊乗坊重源が、その作業に当たっていた人たちの病気治療のために、この野谷の地に設けたものと伝えられています。このような石風呂は徳地地内にいくつか設けられたようです。

この石風呂は佐波川の支流にあたる四古谷川の巨岩の麓を横穴式に掘り込んで作られており、高さ〇・九m 幅〇・六mの長方形の出入口があります。

石風呂の中の広さは奥行き二・五m 幅一・九m 高さ一・一mあり、同時に四人程度が利用できる広さです。石風呂の入口のそばには拝石（念仏石ともいい、この石に念仏を唱えてから入浴する）が立てられています。

念石（念仏石）

各地の石風呂の起源には、薬師信仰・弘法大師・重源上人の伝承があるところをみると、石風呂は仏教とともに我が国にもたされ、潔斎と保健衛生のために利用され、仏教と共に僧侶によってひろめられたと推定される。

石風呂にはいるとき、出るときも、経文、名号、真言を唱えたという伝承がある。

この「念石（念仏石）」は、この前で読経し、撫でながら心を鎮め、それから石風呂にはいり心身を清めたといわれる。

石風呂は、ただたんに肉体的疲労や怪我・病気治療に利用されたのでなく、宗教的社会救済施設の場だったので、きわめてまじめな作法が要求されたことは当然で、一般民衆の共同医療用として、また、娯楽用として重宝がられるようになったのは後生のことである。

念石（念仏石）があるということは、当時の施設を物語る貴重な資料である。